

医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信第 102 号

第103回ワーキンググループ会議 (R4.7.28)

「本人と思いを共有し、寄り添う視点」

●話題提供者

滋賀県健康医療福祉部障害福祉課
精神保健福祉士 池田 健太郎 さん

精神保健福祉士とは、精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの国家資格です。精神障害者の抱える生活問題や社会問題の解決のための演者や、社会参加に向けての試験活動を通して、その人らしいライフスタイルの獲得を目標に活動されています。

今回は、医療職・介護職・行政職を中心に 39 名の方が参加されました。

なぜ、寄り添って
支援することが
大切なの？



その人が、主体的に自己決定するサポートができるから

焦らず気持ちを
受け止めま
しょう！

傾聴の技法は？



あいづち、うなずき
開かれた質問
肯定する
繰り返す
ねぎらいの言葉をかける



短い期間で結果を残すことを求められる中で、機が熟すのを待つということについては我々も非常にジレンマを感じながらやっている。

本当はもっと時間をかけて寄り添いたいが、それが許されない環境にある。そういったジレンマを抱えながら、いかに気持ちを受け止めて向き合うかということが大切だと改めて感じた。



池田 健太郎さん

参加者の声

- ・鬱や統合失調症の方の場合、本人の状態を家族が理解できないことがある。そのため、専門医につなげたくてもかなわず、看取りや入院となっても、最終的には流れに身を任せざるを得ない状況になることが多い。決定は非常に難しいが、方向軸を決める人がいるということがとても大切であると思う。(医師)
- ・患者の気持ちが非常に不安定なので、まずは健康を確保してあげることが一番。身体が元気であれば気持ちも安定してくる。そこから決定すると良い方向に持って行けるということ、周りの医療職や介護職が協働することが大切。(介護職)
- ・きちんとしたカリキュラムを経て介護職に就いている人は少ない。在宅や病院で医師や看護師が入って話をするときは専門用語が飛び交うため、正しく理解できないことも多い。そのため、家族の思いやできることをうまく説明できず、病院側の意見に押されて後々困ることが多い。(介護職)
- ・精神疾患には触法や自殺未遂、社会不安など色々な方がいるので同じに考えるのは難しい。そのうえで、近すぎず遠すぎずの距離感が大切で、特に身近な人ほど感情が入りやすくなり、寄り添うことが難しい。
- ・入院が 40~50 年となると社会生活は難しい。皆で暮らすための地域づくりが大切。
- ・相手が「話してみたい」と思った時にしっかりとそれをキャッチし、聴くようにしていきたい。患者や利用者に寄り添うために、日々のちょっとした違いを知らなければならぬし、何より相手のことを知りたい、興味をもちたいという気持ちがとても大切だと思う。そのような中で、本人が周りにうまく伝えられないことがあれば、それを代弁するような役割にも積極的になっていきたいと考えている。
- ・支える側も、近年ではうつ病や適応障害などの病気を持つことが増えてきているように感じるので、関わる者自身、職場で声を掛け合ったり、ちょっとした違いをお互いに気付き、互いが元気の源となるようなチームが出来るといえるようになればよいと思う。
- ・一番困っていることは何か問い詰めたとき、周りが「~ということに困っているのだろう」と思って一生懸命働きかけても、本人に困っている自覚がないためなかなか支援ができないということがある。話題提供でもあったとおり、機が熟すのを待たないとうちにもならないということを改めて発見した。
- ・本人やそのキーパーソンとなる方に精神疾患があったりすると、虐待に発展したりというケースがある。家族全体をみでのフォローが非常に難しいし、そういう事例も増えている。しかし、そういった中でも人とつながることは非常に大切で、「話を聴く」ということが原点にあると改めて感じた

アドバイザーの犬塚先生(滋賀県立総合病院)より

「傾聴の基本はあわてないこと」ということが肝に刺さった。「機が熟す」ということは本当にキーワードだと思う。我々が患者に「何かしてあげたい」と思うことはおせっかいになる場合もあり、そうならないようにゆっくりと時間をかけて接するということ、患者に寄り添うということのキーワードになるのではないかと思います、今日の話提供を聴いていた。

「滋賀の医療福祉を守り育てる」 県民フォーラム

今年のテーマは「いつまでもイキイキ！ハツラツ！」
いつまでもイキイキと社会とつながるために、尿もれ予防につながる簡単な体操やセルフマッサージによる若見え講座、効果的なウォーキング講座など、共に楽しく学ぶフォーラムを開催します。

【開催日時】令和4年11月27日(日)
14時~16時30分(受付13時30分~)

【会場】ピアザ淡海 ピアザホール
(大津市におの浜1-1-20)

※Webによるリアルタイム配信も実施

【会場定員】200名(定員に達し次第、締切ります)

【参加費】無料 ※参加者には滋賀県産米「みずかがみ」、オリジナルノートを進呈

【会場参加の申込み方法】

ホームページの専用申込

フォームから

【申込締切】11月17日(木)

